

雲中供養菩薩「南26号」

この力強い像は、阿弥陀堂の南の壁に吊られている26番目の菩薩像（南26号）のレプリカです。菩薩は金の王冠とネックレスを着用し、薄黄色の雲に乗り、シンバルを鳴らしています。菩薩のスカーフと共に左側に流れていく雲によって、像が右に動いているように感じられます。

平等院は、ほぼ千年前の雲中菩薩像の姿を再現し、伝える目的でこのレプリカを作成しました。現代の職人は、科学的手法と歴史的知識を組み合わせ、像の本来の色を特定しました。レプリカを作成するにあたり、本物の像に用いられた割矧造という技法を採用しています。割矧では、ヒノキの部材を彫り、分割し、内剝りを施して、再接着します。ヒノキの部材をくり抜くことで、彫像の重量が軽くなり、時間の経過に伴う亀裂を防ぐことができます。その後、職人は、顔料と金箔を塗る前に、彫像を漆のベースでコーティングしました。明るく、浮世離れしたレプリカの外観は、平安時代後半（794 ～ 1184）、藤原頼通（992 ～ 1074）が、鳳凰堂と堂に納める彫像を造営した頃の美的感覚の最盛期を表しています。平等院の博物館に収められた26体のオリジナルと阿弥陀堂に納められた26体のレプリカとは、色合いこそ異なりますが、平安の美をとどめています。